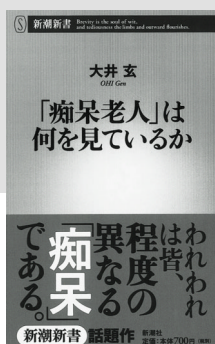


「痴呆」の世界を追う 1つの視線

「痴呆老人」は何を見ているか



大井 玄 著
新書・224 ページ
定価 735 円(本体 700 円+税 5%)
ISBN 978-4-10-610248-6
新潮社, 2008

評者
西村多寿子
看護師・翻訳家

タイトルに「痴呆」とあり「認知症」でないことで本書が古いと判断し、読む気にならない看護師がいるとしたら残念だ。2008 年 1 月発行の新書である。「痴呆」に差別的意味合いが含まれているのか、あるいはそういう認識をつくりだすのに加担してこなかったか、この本を読んで再考してほしい。著者の大井玄氏は、東京大学医学部教授、国立環境研究所所長を歴任し、その後も臨床医としての立場から終末期医療全般に取り組んでいる。

「痴呆」の世界を追う

本書には、かつて宅診に同行した保健師の言葉が大井氏の医療観を大きく変えるきっかけとなったエピソードや、阿保順子氏の看護研究¹⁾の要約がのっている。たとえば【C さん

82 歳女性】の事例は、次のようなものだ。

C さんにとって病棟のデイルームや病室、廊下などは、かつて暮らしていた街の縮小版であり、デイルームの中央にある「置き畳」を、自分の家がある地区の「公民館」だと理解していた。また 81 歳男性の K さんを自分の夫だと思い込んでいたが、別の女性 S さんも K さんを自分の夫だと思っていた。置き畳の上で、K さんが S さんに膝枕をしてもらっている姿を見た C さんは、観察者(阿保氏)に対し、K さんは S さんを以前お婆さんとして世話していたが、S さんは最近金に困って、昔のよしみで金を無心に来た図々しい女だ、と語った。

この事例自体は、本誌の読者にとって特に珍しい話ではないだろう。しかし、この後に展開される大井氏

の「コトバの働き」に関する考察や、情動という深層心理領域で何が起きているかについて、神経生理学、認知科学、仏教の「唯識」を通して説明を試みている部分には圧倒される。

「世界仮構」のバリエーションとしての痴呆

認知症で入院している方々と、ケアする側の連続性について考えたことがあるだろうか。「世界仮構」や「つながり」をキーワードに読み進めると、患者と看護師どころか、ゾウリムシからブッシュ大統領まで壮大な連続性が見えてくる。ゾウリムシは「食べられるもの」と「食べられないもの」で世界を区分するが、生物は一般に、環境中の潜在的な刺激のうち自分に好ましい刺激のみを選択的に受け入れ、不快な刺激を無視している。認知能力が衰えた人は、外界の現実を回避する方向へ、衰えの認められない人では、自分の現実世界を拡大する方向へ世界を仮構している。イラク侵攻を進めるブッシュ大統領は、認知症の老人と同じくらい強い、しかし内向きではなく、外向きの世界仮構を行なう欲求があったのではないかと仮説を展開している。

また、社会的動物としてのヒトは、その場の持つ意味(文脈)に「つながる」ようにコトバを選んでいく。前述の C さんが「公民館」を「置き畳」、他の男性を自分の夫だと話すとき、場所や人間関係といった区分はできており、C さんの中では意味のつながりを持っている。ただし、ケアす



る側の意味のつながりとは明らかに違うため、その仮構性が際立っているだけである。以下に引用する著者の主張を、看護師として真摯に受けとめたい。

「Cさんの事物認識が観察者の認識とずれていても、それを是正する必要はないのです。しかし世の中の「介護者」には、老人の「事物誤認」を叱り、矯正しようという教育的情熱に溢れた人がじつに多いのです。そのため老人は、せっかく見つけた「意味」を見失い、混乱してしまいます。(本書、p105)」

「生存戦略」という視点

本書は同著者の『痴呆の哲学』(弘

文堂 2004 年)と重なる内容もあったが、第7章「現代の社会と生存戦略」と最終章「日本人の「私」」には、先著にはなかった視点が加えられている。老年期の話題から一転し、「若い人に見られる「ひきこもり」の背景には大人の生存戦略的な価値転換がある」という指摘は、子育て中の私には衝撃的でさえあった。しかし、他方で1990年代に著者の下で大学院生をしていた私は、「ヒトの生存戦略」が著者の長年のテーマであることを知っている。院生時代は何気なく聞いていた「生存戦略」という言葉が熟考のうでで発せらせていたことがわかり、当時の無知さを恥じている(白状すると、学生の指導にはあまり熱心でなく、相談に行っても

禅問答のような会話で煙に巻いてしまふ先生だと思っていた)。公職を退いた後、ますます思考に磨きがかかる大井先生の著書を評する立場にはないのだが、本誌の読者に是非とも読んでもらいたい一心で、僭越ながら紹介させていただいた。

●文献

- 1) 阿保順子「痴呆老人が創造する世界」岩波書店 2004 原著論文「痴呆老人のコミュニケーションにおける三つのレベル—痴呆老人の生活世界への理解に向けて」看護研究、医学書院 1993 ; 26(6)